

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2017.11.30

No.448



2017年冬のボーナス調査

レポートの概要

2017年冬のボーナス受給見込額は、平均で37万円となり、昨年冬の受給実績を2千円下回った。一方、ボーナス希望額は平均で49万5千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は期待指数が昨年冬に比べ0.7ポイント上昇した。全体的に改善傾向がうかがわれるが一部に鈍さがみられる。

ボーナスの使途計画は、「消費」が37.6%、「貯蓄」が50.0%、「返済」が12.4%の割合となり、昨年冬に比べ「消費」、「返済」割合が減少、「貯蓄」は増加した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合がトップとなり、「老後の備え」、「教育」と続いた。昨年冬に比べ「安心だから」の増加、「耐久消費財」の減少が目立った。

最近の暮らし向き調査では、「良くなった」とする割合が0.6ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は2.4ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は48.8となり、2017年夏に比べて1.5ポイント上昇した。暮らし向きについては緩やかではあるが改善が続いている。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約3万4,400円、ボーナス時は約5万6,600円となった。毎月小遣いが最も多かったのは50代男性、ボーナス時は30代男性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の27.0%となった。平均贈答先数は4.2先、1先当たりの平均金額は4,726円、御歳暮予算額は1万9,278円となった。昨年冬に比べ、贈答先数、平均金額、予算額はそれぞれ減少した。

1. 2017年冬のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

平均 37 万円、昨年冬を 2 千円下回る

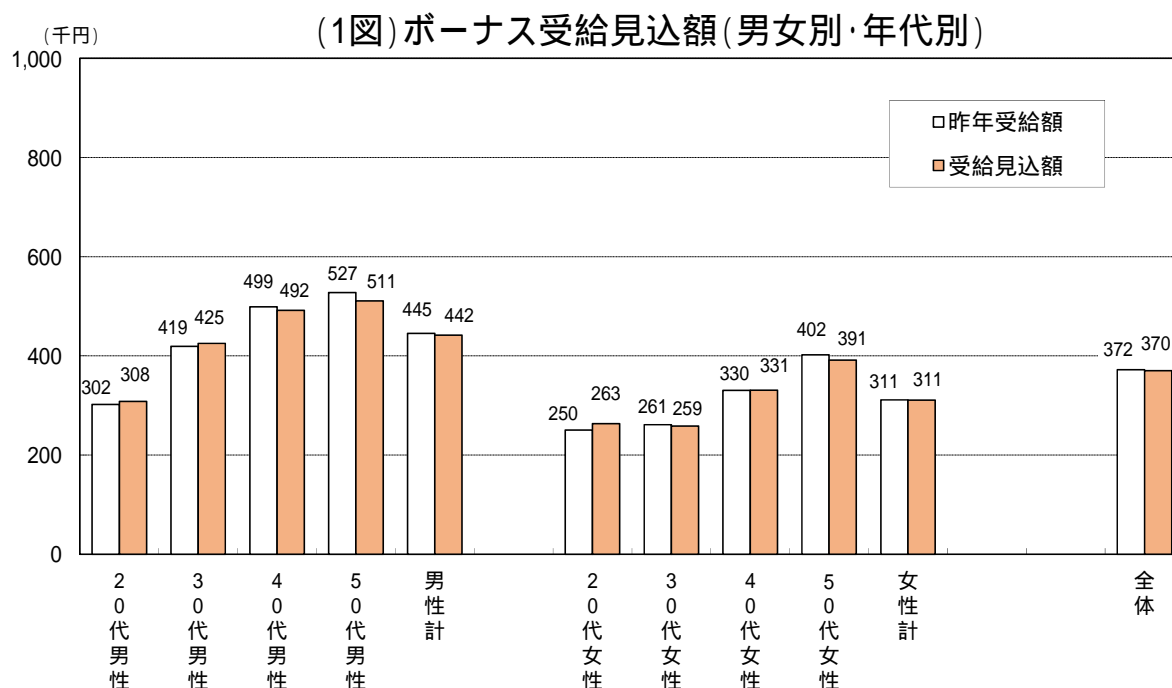
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で 37 万円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均 37 万 2 千円)を 2 千円下回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは 50 代(60 歳以上を含む、以下同じ)男性の 51 万 1 千円、次いで 40 代男性の 49 万 2 千円、30 代男性の 42 万 5 千円、50 代女性の 39 万 1 千円などの順となった。また、20 代(20 歳未満を含む、以下同じ)女性、30 代女性は 30 万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性

が 44 万 2 千円、女性は 31 万 1 千円となり、男性が女性を 13 万 1 千円上回った。

年代別に今冬の見込額と昨年冬の受給実績額との開きをみると、男性は 20 代、30 代で、女性は 20 代、40 代で昨年冬の受給額を上回った。開きが大きかったのは 50 代男性(1 万 6 千円下回る)、50 代女性(1 万 1 千円下回る)、20 代女性(1 万 3 千円上回る)であった。

(以上、1 図参照)

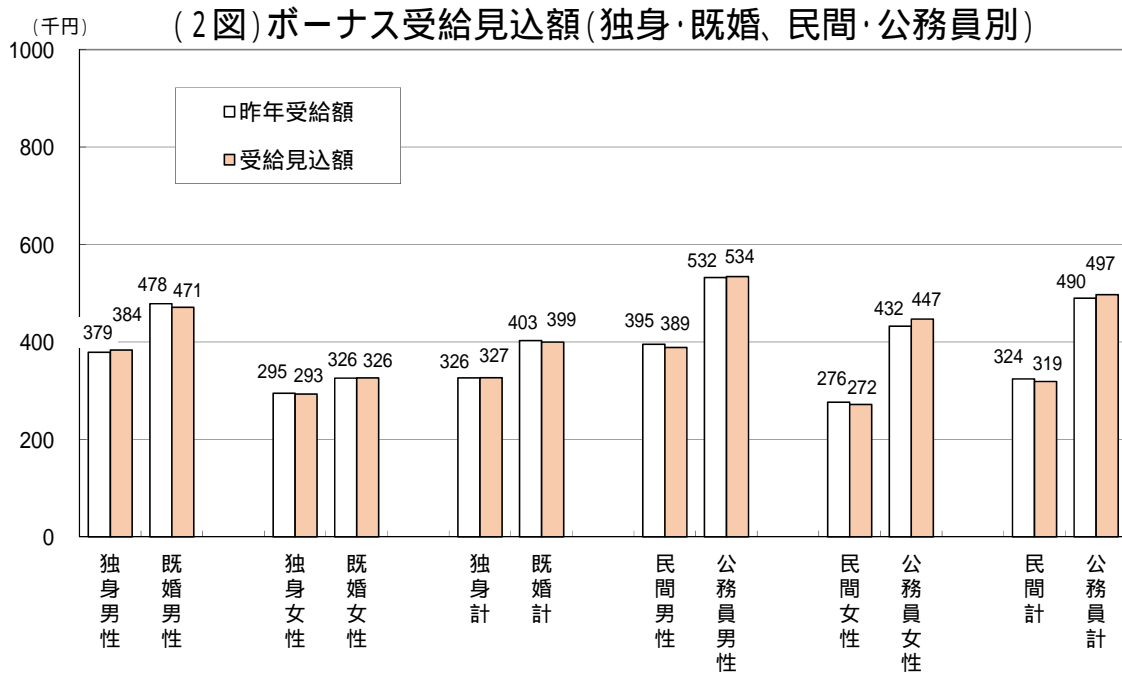


受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が32万7千円、既婚者が39万9千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が1千円上回り、既婚者は4千円下回った。

また、民間・公務員別では、民間が31万9千

円、公務員が49万7千円となった。昨年冬の受給実績額に比べ民間が5千円下回り、公務員は7千円上回った。

(以上、2図参照)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均49万5千円

今冬のボーナス希望額は平均で49万5千円となり、平均受給見込額37万円との間に12万5千円の開きがみられた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が58万7千円、女性は42万円となり、男性が女性を16万7千円上回った。

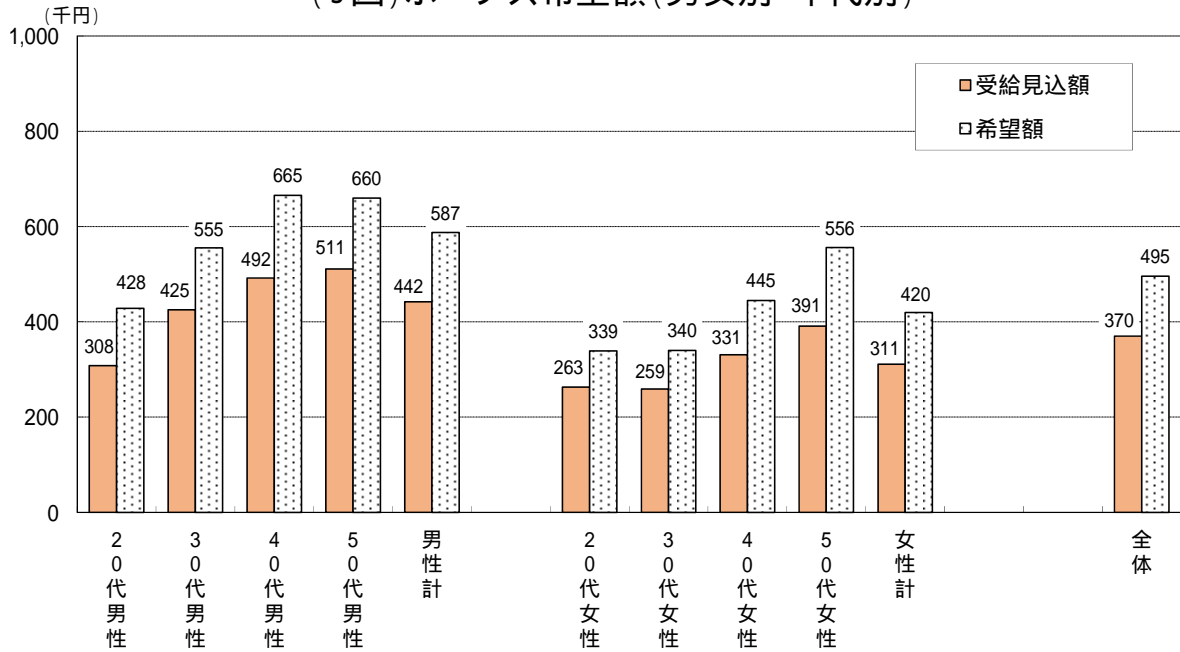
年代別・男女別の平均希望額をみると、40代男性が66万5千円でトップとなり、以下、50代男性の66万円、50代女性の55万6千円などと続いた。

希望額と受給見込額との開きを年代別にみると、40代男性が17万3千円で最も大きかった。

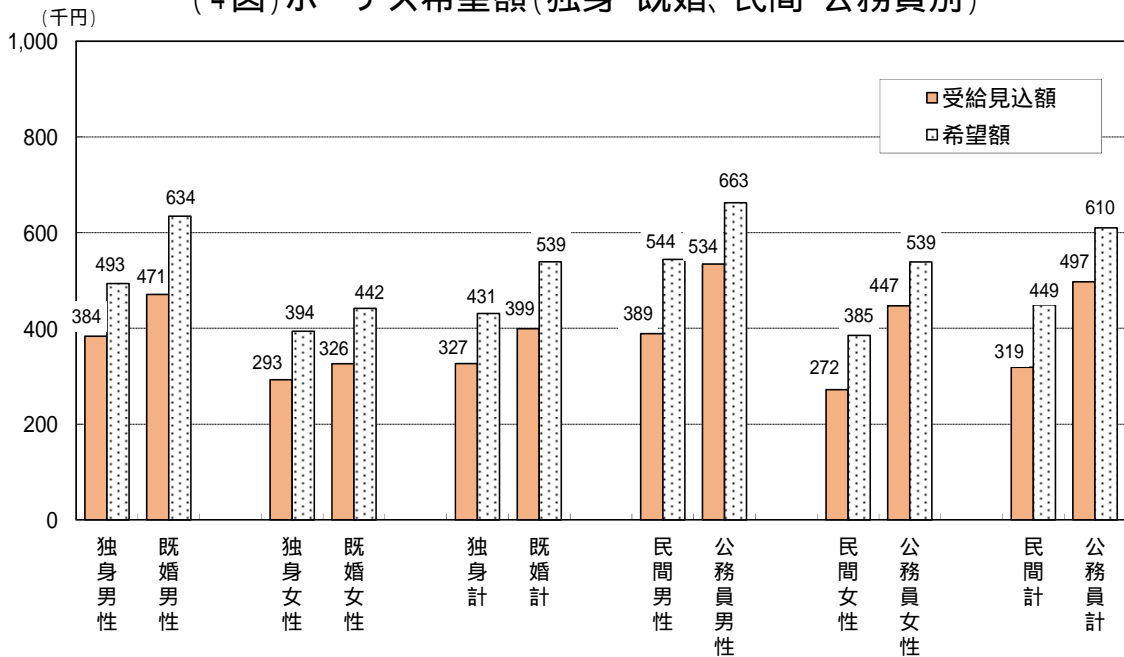
独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きかった。また、民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

(以上、3、4図参照)

(3図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(4図) ボーナス希望額(独身・既婚、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

全体的に改善傾向がうかがわれるが、一部で鈍さがみられる

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、2016年冬に比べ3.8ポイント増加の16.3%、「悪くなる」が同2.5ポイ

ント増加の12.9%、「変わらない」が同6.3ポイント減少の70.8%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は、昨年冬に比べて0.7ポイント上昇の51.7となった。

年代・属性別にみると、男性、独身、公務

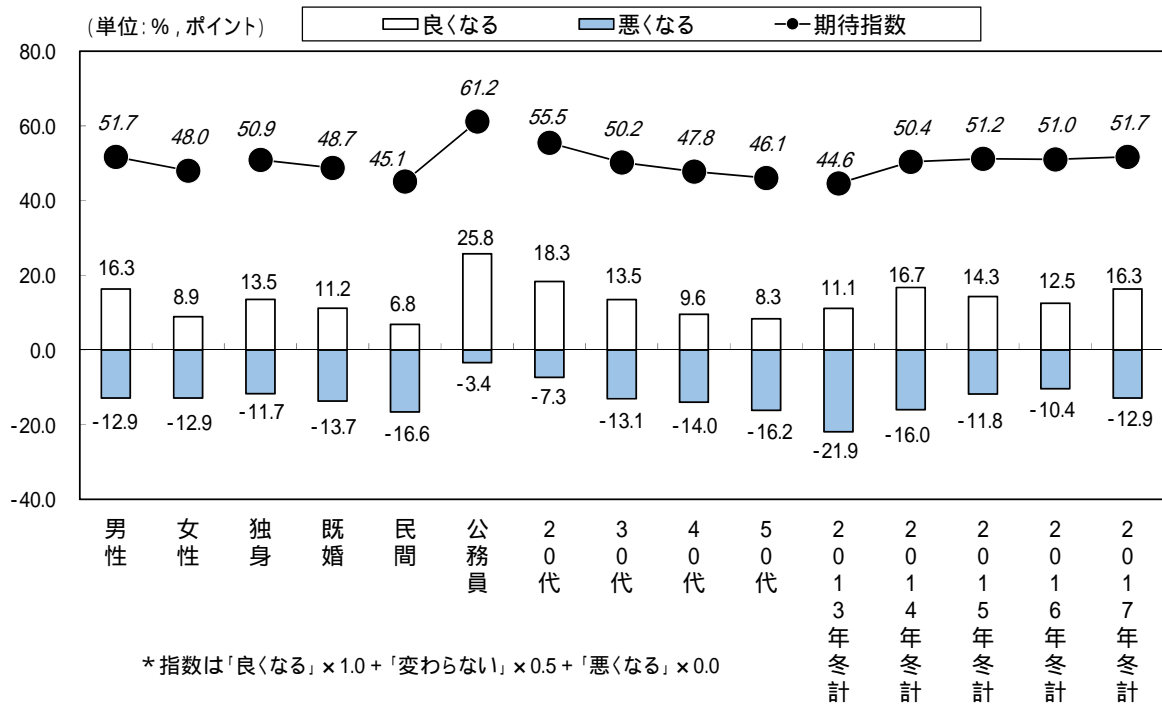
員、20代、30代で「良くなる」割合が「悪くなる」を上回った。期待指数が高かったのは、公務員(61.2)、20代(55.5)、男性(51.7)であった。

いては全体的に改善傾向がうかがわれるが、民間、40代、50代については鈍さがみられる。

(以上、5図参照)

今冬の期待指数は公務員の大幅な上昇が全体を引き上げた。ボーナスの伸びにつ

(5図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

消費・返済割合が減少、貯蓄割合は5割を占める

今冬のボーナスの使途計画は、「消費」が37.6%、「貯蓄」が50.0%、「返済」が12.4%の割合となった。昨年冬と比べると、「消費」割合が0.4ポイント減少、「貯蓄」割合が2.5ポイント増加、「返済」割合が2.1ポイント減少した。

では、独身者は「消費」、既婚者は「返済」割合が高く、「貯蓄」割合はほぼ同じであった。民間・公務員別では、民間は、「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1表参照)

男女別にみると、男性は「返済」割合、女性は「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別

(1表) ボーナスの使途計画

(単位: %)

	消費割合				貯蓄割合	返済割合				
	買い物	レジャー	交際費	その他		自動車	住宅	その他		
男性	36.4	15.6	6.0	6.8	8.0	47.4	16.2	4.6	7.2	4.4
女性	38.5	16.1	6.8	5.8	9.8	52.1	9.4	3.6	2.3	3.5
独身者	41.4	18.0	7.1	7.9	8.4	50.1	8.5	4.1	1.2	3.2
既婚者	34.8	14.3	6.0	5.1	9.4	50.0	15.2	4.0	6.8	4.4
民間	37.8	16.3	6.2	6.3	9.0	50.9	11.3	3.9	3.6	3.8
公務員	37.1	14.8	7.0	6.2	9.1	48.0	14.9	4.3	6.4	4.2
2017年冬計	37.6	15.8	6.4	6.2	9.2	50.0	12.4	4.0	4.4	4.0
2016年冬計	38.0	18.2	6.7	6.8	6.3	47.5	14.5	4.5	6.6	3.4
2015年冬計	40.1	18.4	6.8	6.3	8.6	44.8	15.1	4.5	6.2	4.4

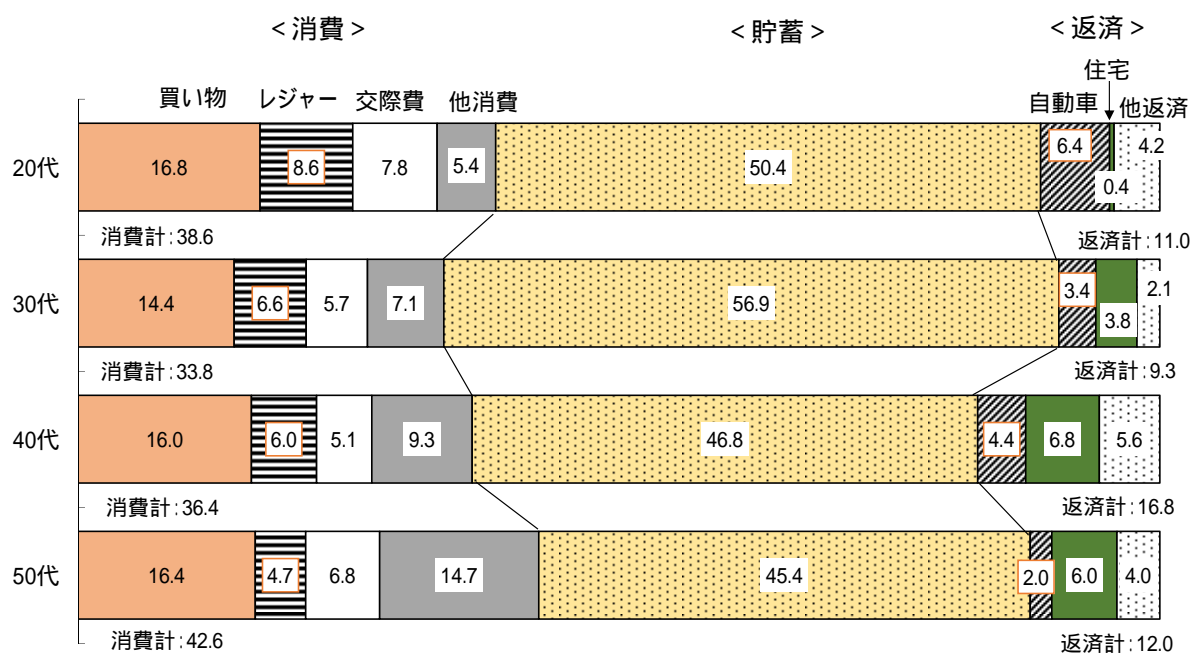
年代別にみると、「消費」割合は50代が42.6%と最も高かった。「貯蓄」割合は30代が56.9%で最も高かった。「返済」割合は40代の16.8%が最も高く、自動車ローンの

割合は20代、住宅ローンは40代、50代が高かった。

(以上、6図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画

(単位: %)



(5) 貯蓄の目的

「安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」と続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が44.4%で最も高く、以下「老後の備え」が35.8%、「教育」が26.7%などと続いた。

昨年冬との比較では「安心だから」(4.7ポイント増)の増加、「耐久消費財」(4.0ポイント減)の減少が目立った。

男女別にみると、男性は「教育」、「耐久消費財」の割合が女性に比べ高く、女性は「旅行」、「老後の備え」が男性を上回った。

独身・既婚別にみると、独身者はトップが「安心だから」(59.8%)で既婚者に比べ26.5ポイント高く、次いで「老後の備え」、「旅行」、「結婚」と続いた。一方、既婚者は「教育」(43.5%)がトップとなり、「老後の備え」、「安心だから」、「旅行」と続いた。

(以上、2表参照)

(2表) 貯蓄の目的

(単位: %)

	男性	女性	独身	既婚	2017年冬計	2016年冬計	2015年冬計
住宅	10.3	11.6	4.6	15.6	11.0	8.7	12.1
教育	(3) 30.8	23.4	3.7	(1) 43.5	(3) 26.7	(3) 27.1	(3) 27.8
結婚	8.3	6.1	15.0	1.3	7.1	7.3	8.4
旅行	15.4	(3) 25.1	(3) 23.0	19.0	20.7	18.5	21.9
耐久消費財	9.7	5.9	6.4	8.5	7.6	11.6	10.5
病気の備え	11.4	10.9	12.3	10.3	11.1	11.2	12.3
老後の備え	(2) 31.1	(2) 39.7	(2) 29.8	(2) 40.2	(2) 35.8	(2) 34.8	(2) 36.8
安心だから	(1) 44.7	(1) 44.2	(1) 59.8	(3) 33.3	(1) 44.4	(1) 39.7	(1) 39.6

2. 最近の暮らし向き調査

緩やかながら暮らし向きは改善傾向

まず、「昨年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、2017年夏に比べ「良くなった」とする回答が0.6ポイント増加の7.7%、一方、「悪くなった」は2.4ポイント減少の10.1%となり、「変わらない」は1.8ポイント増加の82.2%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は48.8と、2017年夏に比べ1.5ポイント上昇した。

暮らし向き指数は3期(半期毎)連続で上昇し、今回は過去10年間で最も高い水準となった。また、「悪くなった」とする割合は6期連続で減少しており、緩やかではあるが暮らし向きの改善が続いている。

年代別、属性別にみると、「良くなった」とする割合が「悪くなった」を上回ったのは、20代(7.9ポイント)、30代(4.9ポイント)、公務員(2.6ポイント)であった。他の属性では

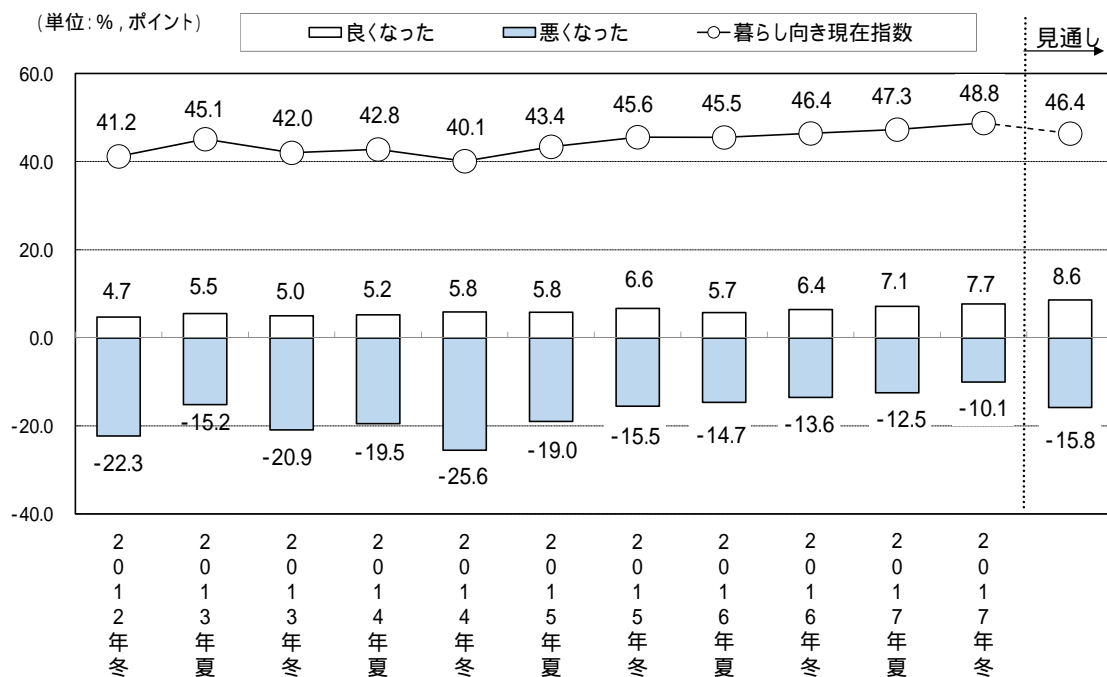
「悪くなった」が「良くなった」を上回ったものの、各属性とも「悪くなった」とする割合はこのところ減少傾向が続いている。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」の割合が0.9ポイント増加の8.6%、「悪くな

る」は5.7ポイント増加の15.8%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は46.4となり、「現在の暮らし向き指数」を2.4ポイント下回った。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	6.4	9.7	84.6	75.2	9.0	15.1	48.7	47.3
女性	8.7	7.7	80.4	75.8	10.9	16.4	48.9	45.7
独身	8.9	10.4	82.0	78.2	9.1	11.4	49.9	49.5
既婚	6.8	7.4	82.5	73.7	10.7	18.9	48.1	44.2
民間	7.4	8.1	81.0	73.9	11.7	18.0	47.8	45.0
公務員	8.5	9.9	85.7	79.9	5.9	10.3	51.3	49.8
20代	14.9	12.9	78.1	80.1	7.0	7.0	54.0	53.0
30代	11.7	13.6	81.5	74.3	6.8	12.1	52.5	50.8
40代	2.9	5.0	86.0	78.5	11.2	16.5	45.9	44.3
50代	2.3	3.2	82.4	69.2	15.4	27.6	43.4	37.8
全体	7.7	8.6	82.3	75.6	10.1	15.8	48.8	46.4

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. 県内給与所得者の小遣いについて

毎月の小遣いは50代男性、ボーナス時は30代男性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約3万4,400円、ボーナス時は約5万6,600円となった。男女別にみると、男性は毎月の平均額が約4万100円、ボーナス時は約6万3,700円、女性は毎月が約3万100円、ボーナス時が約5万1,000円となった。

次に男女・年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いが最も多いのは50代男性の

約4万2,100円、逆に最も少ないのは30代女性の約2万6,600円であった。ボーナス時で最も多いのが30代男性の約7万9,400円、最も少ないのは30代女性の約4万3,100円であった。

毎月の小遣いは全ての年代で男性が女性を上回った。ボーナス時は20代を除く年代で男性が女性を上回った。

(以上、4表参照)

(4表) 小遣いの額

(単位:円)

	男 性		女 性		総 計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20代	41,910	71,176	39,535	71,364	40,482	71,289
30代	41,947	79,444	26,640	43,113	32,935	57,809
40代	35,965	59,891	28,635	48,604	31,964	53,719
50代	42,053	48,654	27,269	44,937	34,187	46,783
年代計	40,129	63,669	30,050	50,965	34,434	56,554

4. この冬の御歳暮事情について

「予定あり」が27.0%、贈答先数、平均金額、予算額はそれぞれ減少

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の27.0%が「予定あり」としており、昨年冬(26.5%)に比べ0.5ポイント増加した。

属性別にみると、独身・既婚別では、「予定あり」が独身者は12.8%、既婚者は36.9%となった。「予定あり」を年代別にみると、50代では50.9%であるが、20代は6.4%と年代によって開きがみられる。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と1先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数が4.2先、1先当たりの平均金額が

4,726円となり、御歳暮予算額は1万9,278円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬5.1先)が0.9先減少、平均金額(同4,857円)は131円減少、予算額(同2万4,145円)は4,867円減少となった。

属性別にみると、贈答先数、予算額は年代が進むにつれて増加している。また、平均金額では独身・既婚別、年代別で大きな開きはみられなかった。

(以上、5表、6表参照)

(5表) 御歳暮の予定

(単位:%)

	予定あり	予定なし
独身	12.8	87.2
既婚	36.9	63.1
20代	6.4	93.6
30代	19.6	80.4
40代	30.2	69.8
50代	50.9	49.1
全体	27.0	73.0

(6表) 御歳暮の先数と予算

(単位:先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	4.1	4,640	19,020
既婚	4.3	4,746	19,341
20代	2.6	4,538	11,231
30代	3.3	4,538	15,077
40代	4.0	4,661	18,923
50代	5.0	4,889	22,546
全体	4.2	4,726	19,278

(注) 回答項目をそれぞれ単純平均

以上

調査要領

調査対象者	県内在住の給与所得者
調査時期	2017年10月下旬～11月上旬
配布・回収枚数	配布枚数 1,000枚 回収枚数 973枚(回収率97.3%)

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	85	119	204
30代	111	155	266
40代	125	156	281
50代	103	119	222
独身	143	255	398
既婚	281	294	575
民間企業	267	433	700
公務員	157	116	273
合計	424	549	973

注: 20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所
主任研究員 野里和廣
TEL 017-777-1511